

平成 30 年度第 3 回広島県公立大学法人評価委員会の概要

- 1 開催日時：平成 30 年 11 月 26 日（月）13:30～14:30
- 2 開催場所：サテライトキャンパスひろしま 503 会議室
- 3 出席委員：曾余田委員長，浅田委員，山川委員
- 4 議 題：公立大学法人県立広島大学 第三期中期目標（素案）について

【主な意見（○委員・●事務局）】

- 時代の流れを見据えた意欲的な目標だと思う。人材育成の方向性について理解できる。
- 文科省の設置認可申請においては，教育課程の体系性が重視される。今後，議論していくことだと思うが，学生も，自分の専門分野が何なのか見ることができるため，幅広い教養と軸となるものの組み合わせが重要となる。
- 専門分野については，基本的には，学際的な部分で学位を出していく方向で検討している。大学院に進学する際に必要となることでもあり，体系性に留意し，今後，認可申請に向けて詰めていきたい。
- 広島県は「学びの変革アクションプラン」を策定し，全国に先駆けて，教育改革に取り組んでいるが，この度の改革は「学びの変革」との接続という観点でも，一貫性があるものと認められる。また，人口減少が進む中で，必要な人材を育成する取組は，今やるべき必要性があるものと理解できる。
- 学部・学科の再編で育成を目指す「課題探究型地域創生人材」と，新たな教育モデルで育成を目指す人材について，少し似ている気がするが，違いは何か。
- 前者は，地域の課題について主体的に考え，解決策に結び付けていく人材であり，「地域・ひろしま」を学びのフィールドとして最大限活用し，これまで以上に，広島を学修・研究のテーマとして取り上げようとしている。後者は，分野や地域を問わず，様々な課題を粘り強く解決していき，他者と協働して新しい価値を生み出していく人材を表している。
- 新たな教育モデルにおいて，どのような人材を育成しようとしているのか，インパクトが見えにくいように思う。今後，PBL等の教育方法も含み込んだ上で，専門分野にどう名前が付くかによって，より明確な色が出てくると思う。これまでの検討は「どのように学ぶか」に力を入れているが，これからは「何を学ぶか」についても詰めてほしい。
- 学位等にも影響が出てくる話であり，認可申請に向けて検討していきたい。
- 「課題探究型地域創生人材」について，「課題解決」についても明記すべきではないか。
- 調整させていただく。
- 「経費の抑制」について書かれているが，新しい大学を作るに当たっては，当然に経費が必要となるものであり，この点について，どのように考えているか。
- 経費については，必要な部分は確保する必要がある，その上で，効率的な運営を行うよう取り組んでいく。
- 新たな教育モデルで構築するプラットフォームは，「シンクタンク（thinktank）」のみでなく，「ドゥタンク（dotank）」としての機能も期待できるため，既存のものとの違いを明確化して，特徴を出してはどうか。

- プラットフォームの具体的な取組については、そのような要素も入れるよう検討したい。
- 「教員組織を教育組織から分離する」こととしているが、この方向性について、大学側と話しているのか。
- その点は、学部・学科等の再編の中で、大学として取り組んでいる。

- 既存法人の中に作るということで、県と法人で十分協議して良いものを作ってほしい。
- 今後、詳細は中期計画に反映され、次回は、中期計画について議論することになる。

- ⇒ 今回の委員意見の素案への反映について、委員長に一任の上、事務局と詰めることで了承